

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670800473
法人名	特定非営利活動法人あらた
事業所名	グループホーム「民間介護の家たくせい」
訪問調査日	平成 20 年 1 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 5 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	670800473
法人名	特定非営利活動法人あらた
事業所名	グループホーム「民間介護の家たくせい」
所在地 (電話番号)	山形県酒田市北新町一丁目1番43号 (電話) 0234-23-5961

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成20年1月21日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成19年12月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 8.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/改築
建物構造	木造瓦葺 2階建ての	造り 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	7,000円、他実費
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(12月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立酒田病院、桜井内科医院、水戸部クリニック、斎藤クリニック、折居歯科医院
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街道筋から入った旅館を改築した気取りのないホームの建物は、昔懐かしい、落ち着いた雰囲気を醸し出しており、昨年秋に同一法人が新たな施設を開設したことに伴い、併設部門の移転による落ち着かない期間もあったようですが、業務の改善、環境の整備、職員の研修、人事異動などにすぐに取り組んだことによって、現在では以前にも増して手厚く心豊かな介護が提供されている、各種福祉分野での実践経験や日頃からの研修成果を地域に発信し続けるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全員で取り組んでおり、気付いた点を検討した結果、家具の配置換えや業務改善などに具体的に取り組むことができました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議の中では、活動報告、評価報告等についての活発な意見交換が行われており、サロンへの参加、介護相談、防災訓練等の具体的な提案を受けてサービス向上に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時、電話連絡時、運営推進会議などの機会をとらえ、家族の意見や要望を把握するようにしており、速やかな対応を心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎月開催される、自治会である「41区ふれあいの会」に参加したり、小学生のふれあいクラブ、中学生の職場体験、ボランティアなどと交流している。また、法人が毎月実施している「ふれあいサロン」には、地域住民の参加も多く、成果をあげている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、地域の住民と一緒に生活していくことを目標にネーミングし、現在まで継続してその理念を掲げ地域と密着して交流している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	あらゆる機会に理念への取り組みをピーアールし、全員で共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月開催される、自治会である「41区ふれあいの会」に参加したり、小学生のふれあいクラブ、中学生の職場体験、ボランティアなどと交流している。また、法人が毎月実施している「ふれあいサロン」には、地域住民の参加も多く、成果をあげている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に全員で取り組んでおり、気付いた点を検討した結果、家具の配置換えや業務改善などに具体的に取り組むことができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議の中では、活動報告、評価報告等についての活発な意見交換が行われており、サロンへの参加、介護相談、防災訓練等の具体的な提案を受けてサービス向上に取り組んでいる。		

山形県 グループホーム「民間介護の家たくせい」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のサービス連絡協議会の入所部会や通所部会の活動や研修に共に取り組んでいる。また、学区ごとの介護予防教室の認知症高齢者擬似体験や個人情報の取り扱いなど、サービス向上のため、お互いに意見交換を活発に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の受診時、家族に健康状態や暮らしぶり、金銭管理状況などを報告している。また、ホームページや広報「あらた」を発行して、職員の異動やサロンなどの活動状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話連絡時、運営推進会議などの機会をとらえ、家族の意見や要望を把握するようにしており、速やかな対応を心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内事業の移転もあったが、ダメージを防ぐために約3ヶ月かけて担当者の交代が行われたり、馴染みの職員の確保に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には特に力を入れており、法人内、県内、東北ブロックなど多数参加し復命書で報告している。課題分析方式の研修には、2週間の集中研修が行われ成果を挙げている。また、資格取得の研修にも便宜が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のサービス連絡協議会の入所部会や通所部会に参加しており、研修や交換実習などを通してサービス向上に向けた相互交流が図られている。		

山形県 グループホーム「民間介護の家たくせい」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は年々身体能力が低下してきているが、その中でできることを見つけ、職員と一緒に買い物、配膳、部屋の掃除、布団敷き、お茶入れなどを楽しみながら行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴や生活習慣をもとにしながら、一人ひとりの希望や意向を把握している。また、本人からの意向の把握が困難な場合には、細かい観察を行いながらチームで検討して把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、関係者、全職員で、利用者本位の課題分析に基づく介護計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は、3ヶ月ごとに介護計画の見直しが行われているが、状態の変化があり計画の見直しが必要な場合には、その都度計画の見直しがなされる。		

山形県 グループホーム「民間介護の家たくせい」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医を受診の際は「受診時連絡表」(経過記 録)を持参し、適切な医療が受けられるように支援して いる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用開始時に、本人、家族の希望を確認し、重症化し た時点で関係者と話し合い、方針の共有を図ってい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	個人の尊厳を守り、温かい言葉で職員は利用者につ 接しており、また、守秘義務を守りながら個人情報 の管理を適切にできるように、採用時や退職時に職 員への徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの行事を優先することなく、利用者のペー スや希望を取り入れ、臨機応変に対応している。		

山形県 グループホーム「民間介護の家たくせい」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階の自室で、家族や職員、仲の良い利用者と落ち着いて食事をしている人もおり、一人ひとりの状態に添った支援が行われている。また、配膳や後片付けなども、利用者が率先して楽しみながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で、法人施設の大浴場に行くグループや重度化のため職員2人の介助で入浴している利用者もおり、一人ひとりに合わせた支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	書道、茶道、踊りの指導など、生活歴を活かした喜びのある生活を送っており、カラオケ、計算ドリル、ぬり絵を職員と共に楽しんでいる方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店への買い物、散歩、町内会の夏祭りやクリスマス会など、利用者の希望に添った外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけておらず、誰もが自由に入出りできるようにしている。また、夜間の面会も制限しない対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防や地域の協力を得て、避難訓練を実施している。災害避難カードの作成や自治会防災誘導係など、自治会とも連携しながら安全な避難対策を講じている。		

山形県 グループホーム「民間介護の家たくせい」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの飲み込み状態を観察し、刻み食、ミキサー食、補食液、ゼリーなどが用意されており、同一法人の栄養士や調理師が、栄養バランスのとれた料理提供に協力している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の飾り付けや花の鉢植えがあり、コタツやソファコーナーなどのくつろぎの場所も用意され、落ち着いて安心した生活ができるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	旅館を改築した造りのため、一つ一つの部屋の趣きを活かしながらも馴染みの家具を置くこと等により、家庭的な居心地のよい居室となるようにしている。		